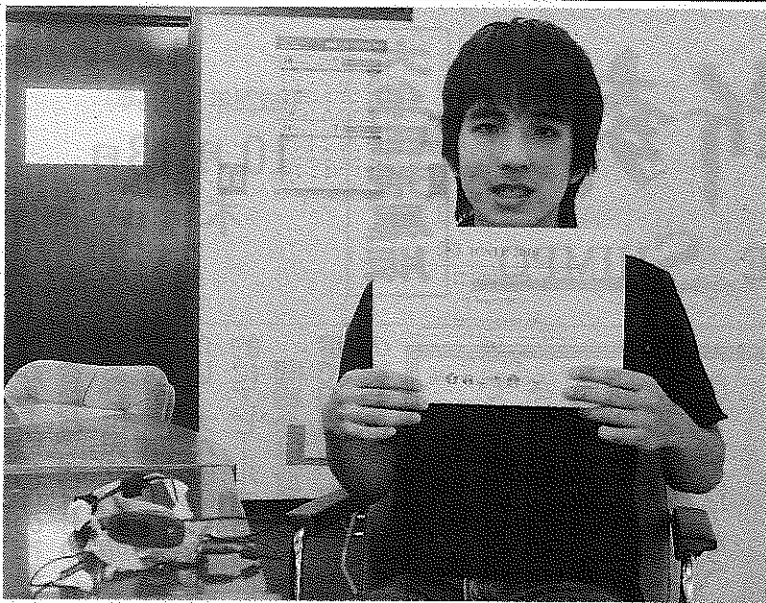


防犯グッズに使えれば

人体画像処理 研究論文 国際学会で優秀賞に

有明高専の
山口さん

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校専攻科2年生、山口賢二さん。荒尾市川登IIが、タイであった国際学会の研究発表に参加。コンピュータとカメラを使った人体画像処理の研究で優秀賞を受けた。防犯グッズに応用できるよければ」と夢見ている。



論文で優秀賞を受けた山口さん

ム工学を学ぶ山口さんは論文部門に挑戦。パワーポイントも使って説明し、約80件の中から13件の優秀賞に選ばれた。

同学会は「International Conference on Science Technology & Education」。日本、タイ、ラオスの友好親善を目的として始まり年に1度開催。今年は9月に開かれた。大学や高専などから情報工学、機械工学、教育に関する研究者が情報交換をする場になっている。中国や韓国など他国からの参加もある。

論文で優秀賞を受けた山口さん

山口さんは同高専創造工学科の菅沼明教授からアドバイスを受け、専攻科に入った昨年4月から研究。防犯カメラは固定され、常に同じ方向を向いているが、人と一緒に動きながら感知できるのがポイント。

後ろのひととの距離、人数などがはっきり分かるようになれば、不審者対策など防犯グッズとして利用できないかと考えている。「さらに研究を深めて問題点を少しでも解決し、後輩たちに引き継ぎたいですね」と山口さん。

昨年別のテーマでポスト部門優秀賞を受け、2年連続の受賞。「アイデアが豊富で、自発的に何でもやってくれる学生です」と菅沼教授も喜んでいる。

(高本 明)